

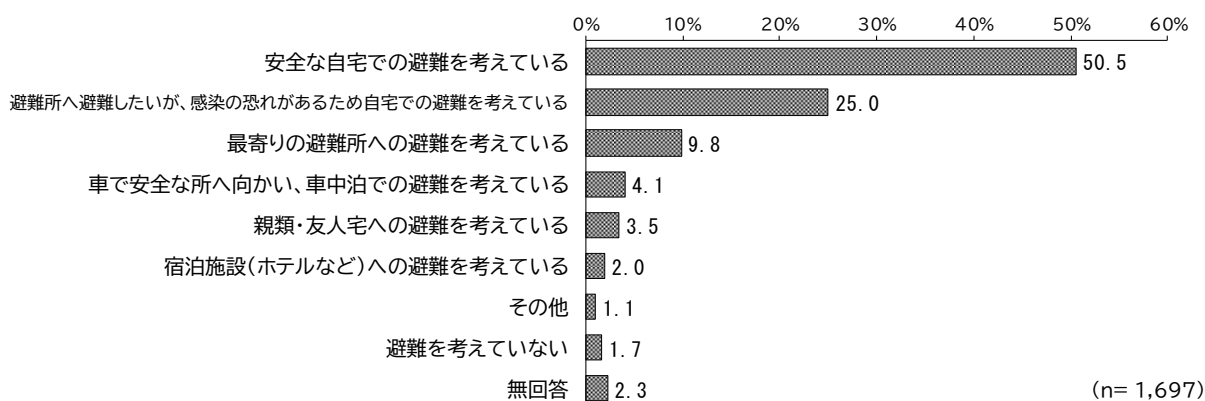
(3) 災害時における避難について

(3-1) コロナ禍における災害時の避難

「安全な自宅での避難を考えている」が5割超

【問19】新型コロナウイルス感染症が全国的に蔓延している今、災害時の避難についてあなたの考えに最も近いものはどれですか。(〇は1つ)

新型コロナウイルス感染症が全国的に蔓延している今、災害時の避難についての考えを聞いたところ、「安全な自宅での避難を考えている」が50.5%で最も高く、次いで「避難所へ避難したいが、感染の恐れがあるため自宅での避難を考えている」が25.0%、「最寄りの避難所への避難を考えている」が9.8%と続いている。コロナ禍では、「安全な自宅での避難を考えている」と「避難所へ避難したいが、感染の恐れがあるため自宅での避難を考えている」を合わせた『自宅での避難を考えている』が全体の7割を超えている。



図Ⅲ-77 コロナ禍における災害時の避難

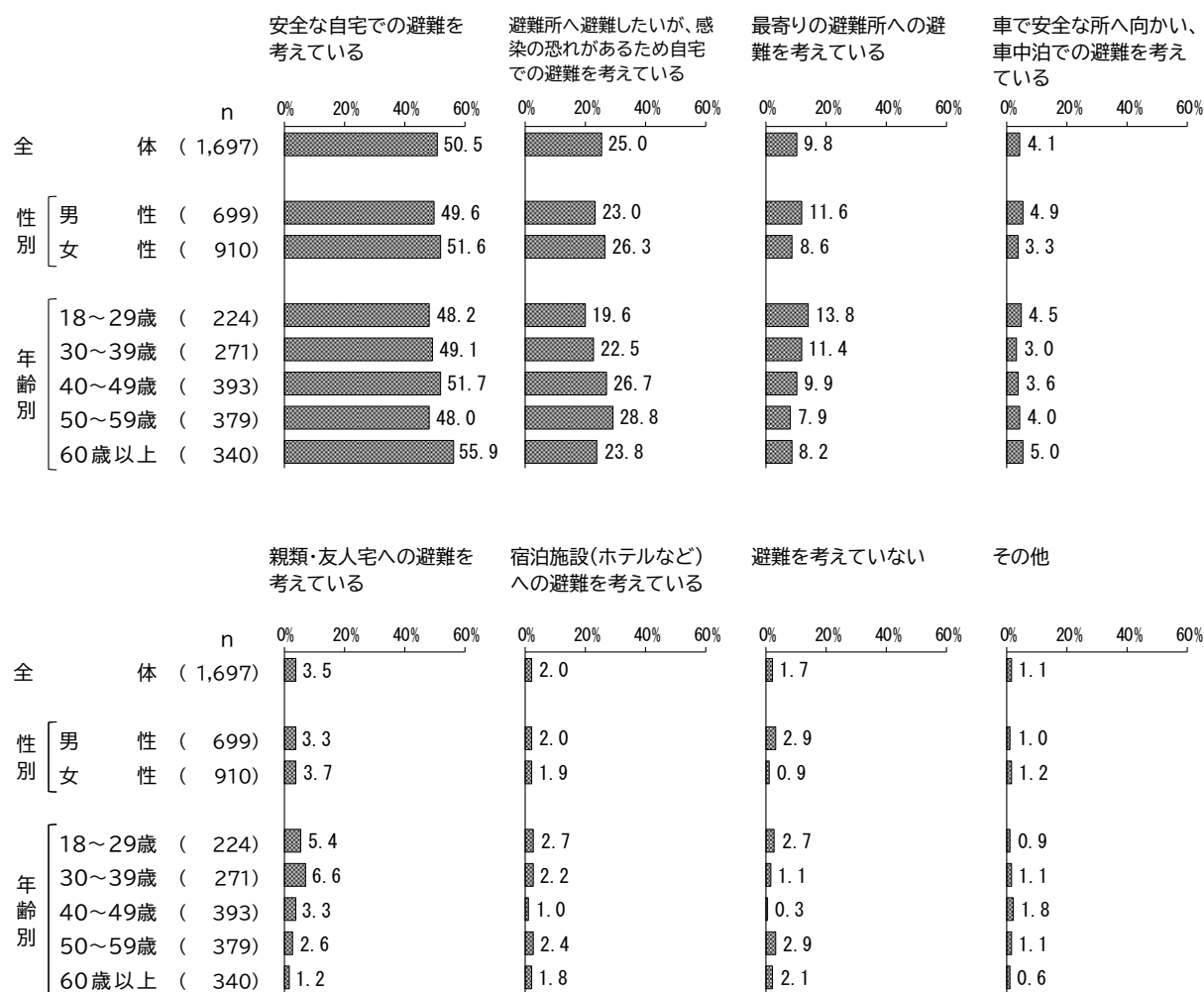
表Ⅲ-19 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
災害の種類やその時の状況によって判断する	7
ペットがいるのでわからない	4
その他	6
合計	17

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「避難所へ避難したいが、感染の恐れがあるため自宅での避難を考えている」では女性（26.3%）が男性（23.0%）より3.3ポイント高くなっている。一方、「最寄りの避難所への避難を考えている」では男性（11.6%）が女性（8.6%）より3.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「安全な自宅での避難を考えている」は、60歳以上で55.9%と他の年齢層と比べて高くなっている。「避難所へ避難したいが、感染の恐れがあるため自宅での避難を考えている」は、50～59歳で28.8%と他と比べて高く、「最寄りの避難所への避難を考えている」は年齢が下がるに従い割合が高くなる傾向が見られ、18～29歳では13.8%となっている。



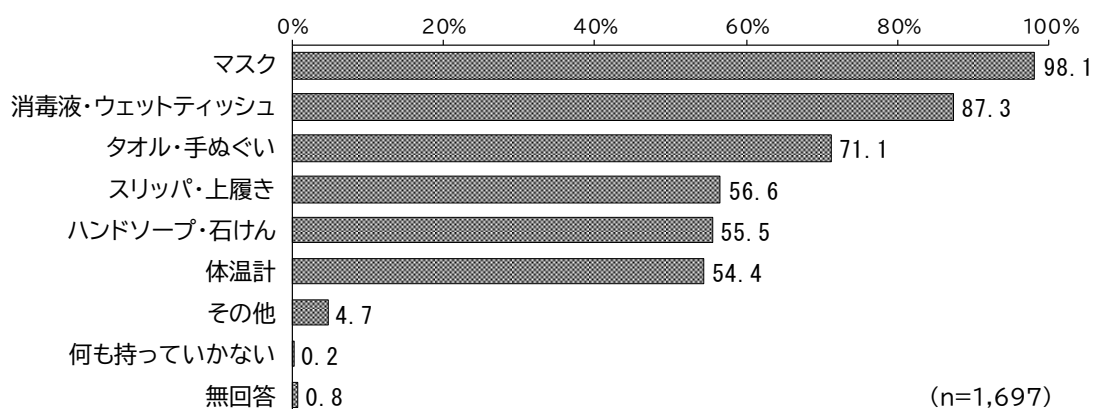
図Ⅲ－78 コロナ禍における災害時の避難（性別／年齢別）

(3-2) 避難時に新型コロナウイルス感染症防止のために持参するもの

「マスク」はほぼ全員、「消毒液・ウェットティッシュ」は9割近く

【問20】避難所に避難することになったと仮定した場合、新型コロナウイルス感染症防止のためにどのようなものを持っていきますか。(〇はいくつでも)

避難所に避難することになったと仮定した場合、新型コロナウイルス感染症防止のためにどのようなものを持っていくかを聞いたところ、「マスク」が98.1%で最も高く、次いで「消毒液・ウェットティッシュ」(87.3%)、「タオル・手ぬぐい」(71.1%)までが7割を超え、「スリッパ・上履き」(56.6%)、「ハンドソープ・石けん」(55.5%)、「体温計」(54.4%)のいずれも5割を超えている。なお、「何も持っていかない」は0.2%と低くなっている。



図Ⅲ-79 避難時に新型コロナウイルス感染症防止のために持参するもの

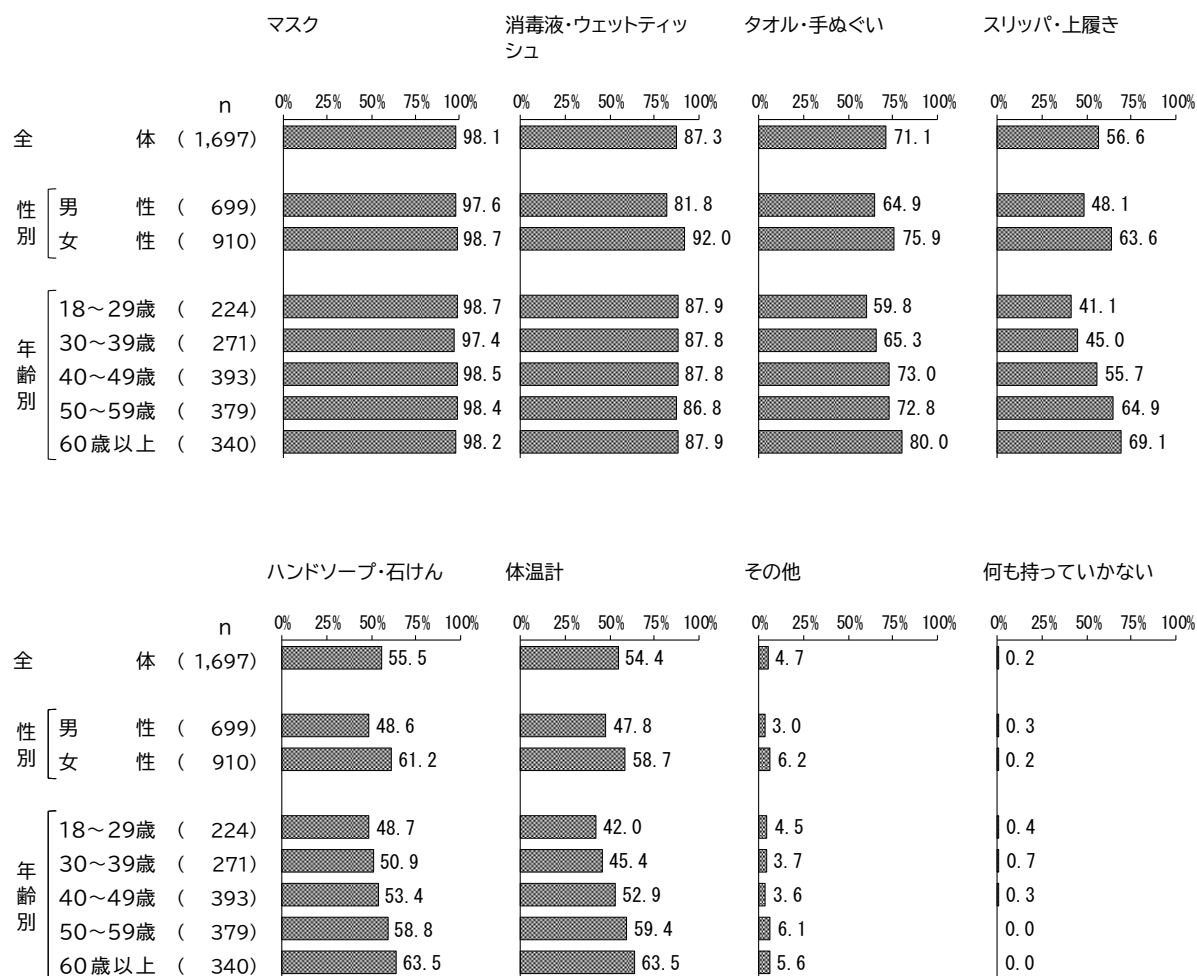
表Ⅲ-20 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
薬・処方薬・うがい薬	16
ビニール袋・ゴミ袋	11
ビニール手袋・ゴム手袋	10
水・飲料水	8
テント・キャンプ道具・寝袋	7
スマートフォン・スマホ充電器	7
服・下着・着替え	6
クッション・毛布・ブランケット	4
歯ブラシ・マウスウォッシュ	3
ラジオ	3
必要なものすべて	3
アイマスク	2
メガネ	2
フェイスシールド	2
その他	12
(記載なし)	4
合計	100

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「何も持っていない」を除く全ての項目で、女性の方が男性より高くなっており、なかでも「スリッパ・上履き」では、女性が63.6%、男性が48.1%となっており、15.5ポイントの差がある。

年齢別にみると、「タオル・手ぬぐい」、「スリッパ・上履き」、「ハンドソープ・石けん」、「体温計」では、年齢が上がるに従い割合が高くなる傾向が見られ、最も高い60歳以上と最も低い18～29歳では、14.8～28.0ポイントの差がある。



図Ⅲ－８０ 避難時に新型コロナウイルス感染症防止のために持参するもの（性別／年齢別）

(4) 災害に関する情報の取得方法について

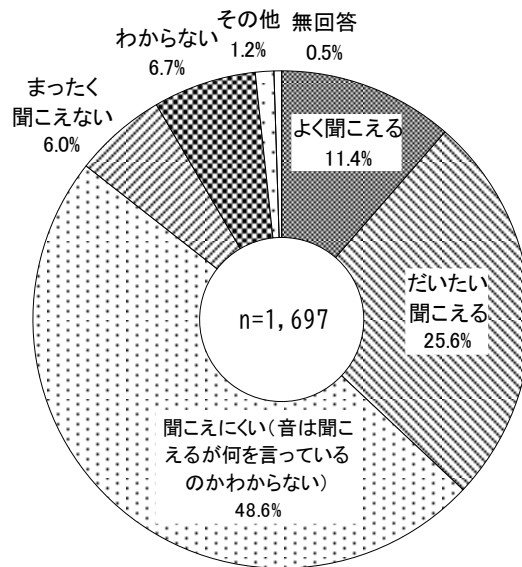
(4-1) 平常時の防災行政無線の聞こえ方

「聞こえにくい(音は聞こえるが何を言っているかわからない)」と「まったく聞こえない」を合わせた『聞こえていない』人は5割超

【問21】防災行政無線では、地震や津波など緊急情報の他に、「迷子・行方不明者情報」や「振り込め詐欺注意喚起」等を、音量を調整して放送しています。平常時の防災行政無線の聞こえ方について、お答えください。(〇は1つ)

平常時の防災行政無線の聞こえ方について聞いたところ、「聞こえにくい(音は聞こえるが何を言っているかわからない)」が48.6%で最も高く、次いで「だいたい聞こえる」が25.6%、「よく聞こえる」が11.4%、「まったく聞こえない」が6.0%となっている。

「よく聞こえる」と「だいたい聞こえる」を合わせた『聞こえている』人は37.0%と4割近くとなっており、「聞こえにくい(音は聞こえるが何を言っているかわからない)」と「まったく聞こえない」を合わせた『聞こえていない』人は54.6%と5割を超えており、『聞こえていない』人の割合が高くなっている。



図Ⅲ-81 平常時の防災行政無線の聞こえ方

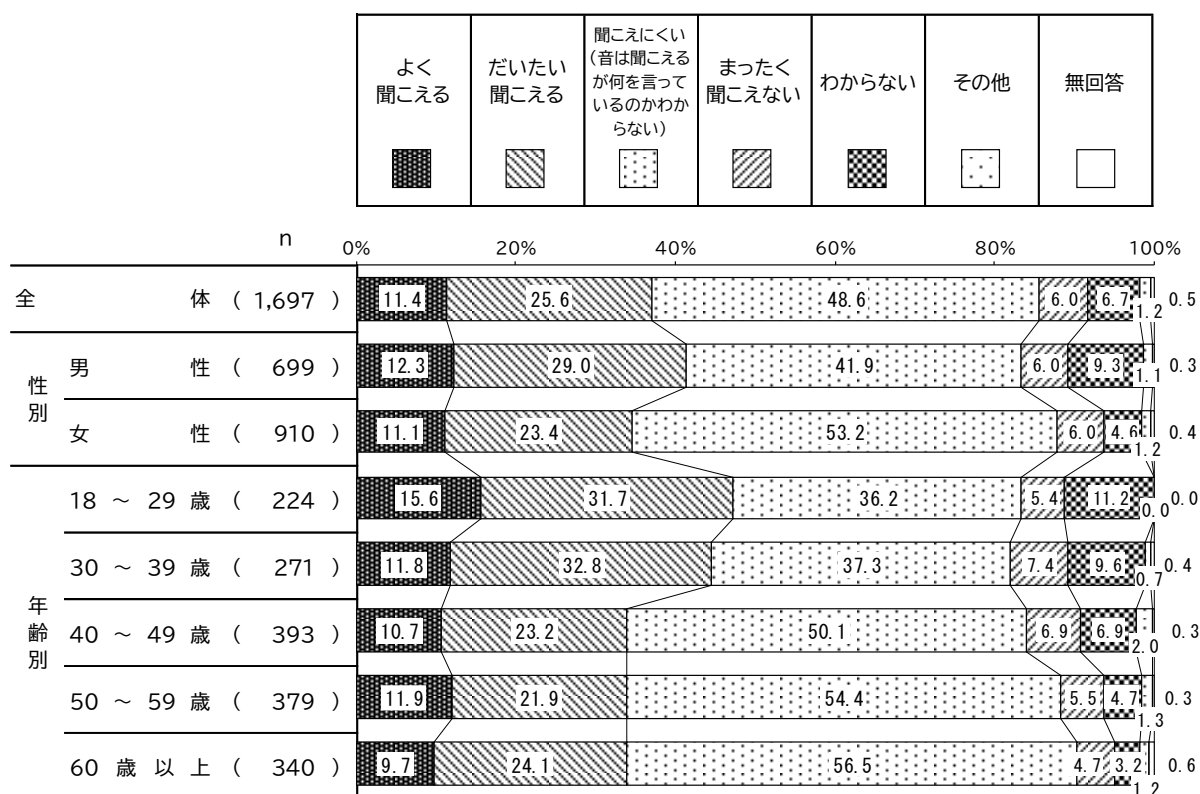
表Ⅲ-21 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
聞こえるときと聞こえないときがある	4
外では聞こえるが家では聞こえない	3
窓が開いていると聞こえ、窓が開いていないと聞こえない	3
風向きによる	2
日中は不在	2
その他	4
(記載なし)	2
合計	20

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「聞こえにくい（音は聞こえるが何を言っているのかわからない）」は、女性（53.2%）が男性（41.9%）より 11.3 ポイント高くなっている。一方、「だいたい聞こえる」は、男性（29.0%）が女性（23.4%）より 5.6 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「だいたい聞こえる」は、18～29 歳（31.7%）、30～39 歳（32.8%）と年齢の低い層で割合が高く、反対に、「聞こえにくい（音は聞こえるが何を言っているのかわからない）」は、年齢が上がるに従い割合が高くなり、最も高い 60 歳以上では 56.5%、最も低い 18～29 歳では 36.2%と、20.3 ポイントの差がある。



図Ⅲ－８２ 平常時の防災行政無線の聞こえ方（性別／年齢別）

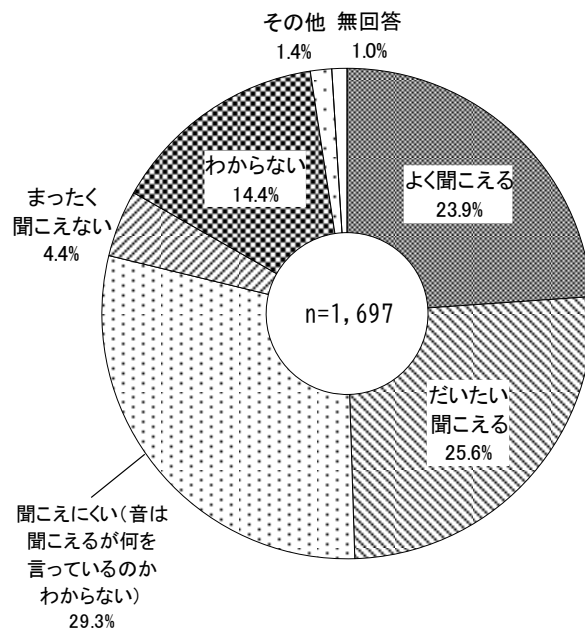
(4-2) 災害時の防災行政無線の聞こえ方

「よく聞こえる」と「だいたい聞こえる」を合わせた『聞こえている』は5割

【問22】緊急地震速報や土砂災害警戒情報が発表された際には、Jアラート（全国瞬時警報システム）を通じて、防災行政無線を最大音量で放送しています。災害時の防災行政無線の聞こえ方について、お答えください。（〇は1つ）

災害時の防災行政無線の聞こえ方について聞いたところ、「聞こえにくい（音は聞こえるが何を言っているのかわからない）」が29.3%で最も高く、次いで「だいたい聞こえる」が25.6%、「よく聞こえる」が23.9%、「まったく聞こえない」が4.4%となっている。

「よく聞こえる」と「だいたい聞こえる」を合わせた『聞こえている』人は49.5%と5割、「聞こえにくい（音は聞こえるが何を言っているのかわからない）」と「まったく聞こえない」を合わせた『聞こえていない』人は33.7%と3割を超えており、災害時の防災行政無線では『聞こえている』人の割合の方が高くなっている。



図Ⅲ-83 災害時の防災行政無線の聞こえ方

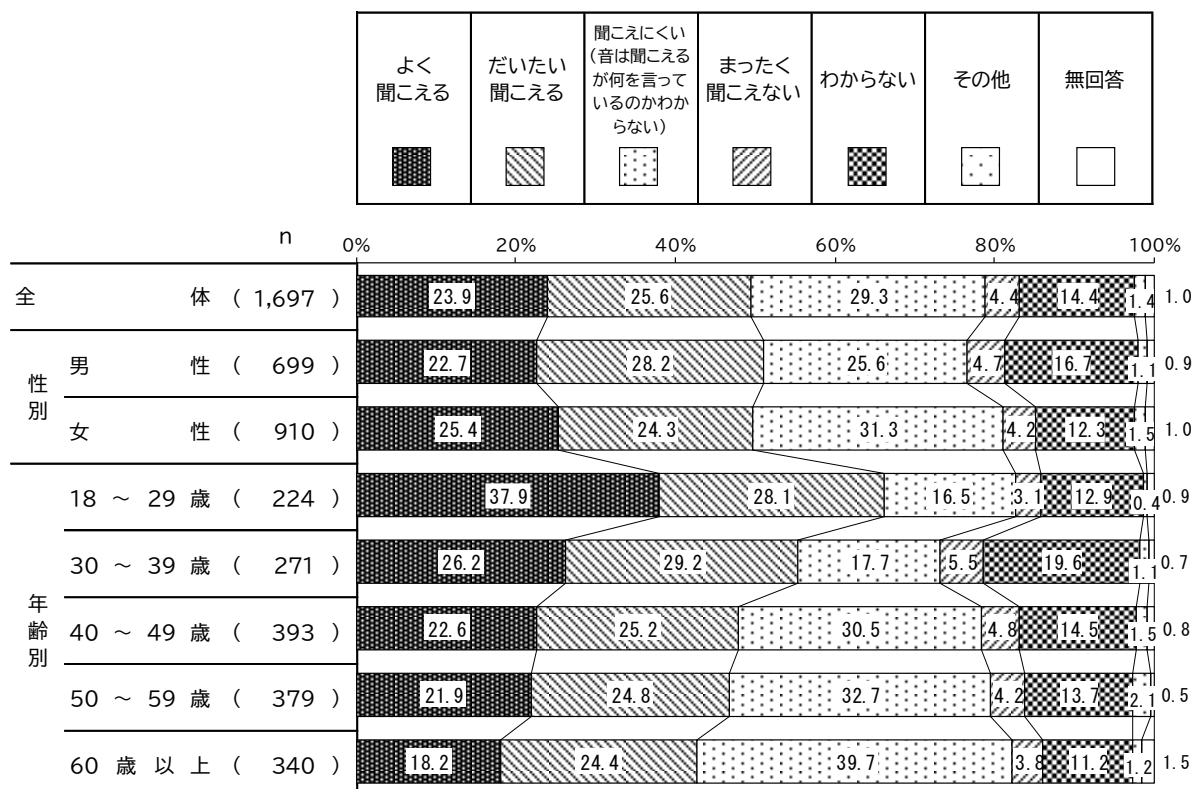
表Ⅲ-22 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
聞いたことがない	8
聞こえるときと聞こえないときがある	2
外では聞こえるが家では聞こえない	2
窓が開いていると聞こえ、窓が開いていないと聞こえない	2
その他	7
(記載なし)	3
合計	24

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「聞こえにくい（音は聞こえるが何を言っているのかわからない）」は、女性（31.3%）が男性（25.6%）より 5.7 ポイント高くなっている。一方、「だいたい聞こえる」は、男性（28.2%）が女性（24.3%）より 3.9 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「よく聞こえる」は、年齢が下がるに従い割合が高くなり、18～29歳で37.9%と4割近い。一方、「聞こえにくい（音は聞こえるが何を言っているのかわからない）」は、年齢が上がるに従い割合が高くなり、最も高い60歳以上では39.7%と4割となっている。



図Ⅲ－84 災害時の防災行政無線の聞こえ方（性別／年齢別）

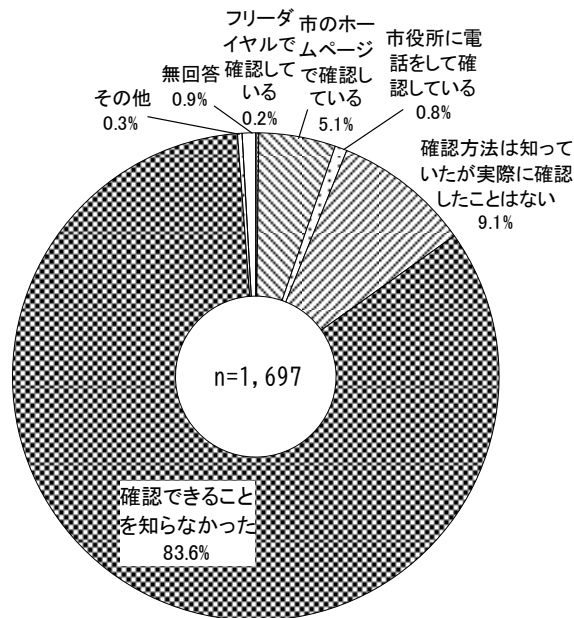
(4-3) 防災行政無線の放送内容の確認方法

「確認できることを知らなかった」が8割超

【問23】防災行政無線の放送内容は、24時間対応のフリーダイヤル【0120-2784-61】^{フオパシムセン}や、市のホームページ（平日の午前9時から午後5時に更新）で、確認することができます。防災行政無線の放送内容の確認方法について、次の中から最もあてはまるものを1つだけ選んでください。（〇は1つ）

防災行政無線の放送内容の確認方法について聞いたところ、「確認できることを知らなかった」が83.6%と8割を超えており、次いで「確認方法は知っていたが実際に確認したことはない」（9.1%）、「市のホームページで確認している」（5.1%）、「市役所に電話をして確認している」（0.8%）、「フリーダイヤルで確認している」（0.2%）の順になっている。

なお、「市のホームページで確認している」、「市役所に電話をして確認している」、「フリーダイヤルで確認している」を合わせた『確認している』人の割合は6.1%となっている。



図Ⅲ-85 防災行政無線の放送内容の確認方法

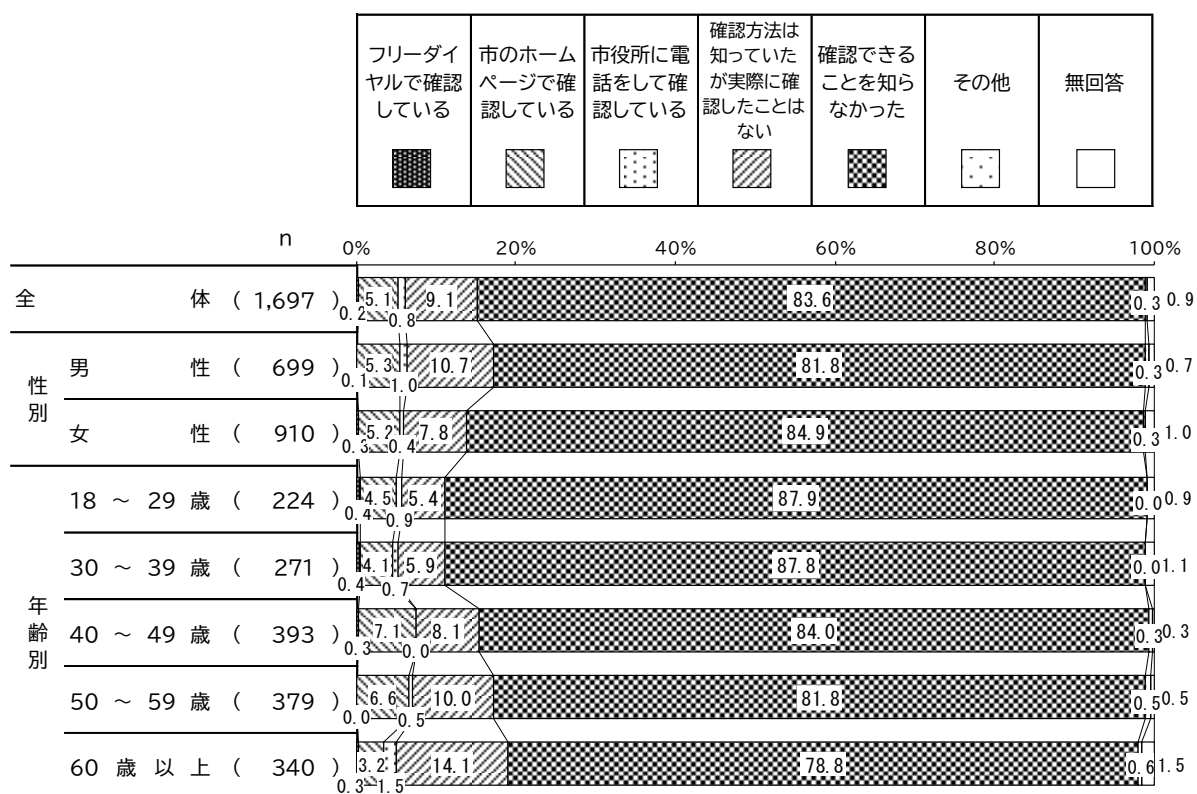
表Ⅲ-23 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
市のtwitter	1
電話に出ない	1
無線があることすら知らなかった	1
市のホームページを見たが最新情報を得られなかった	1
福祉公社に確認	1
合計	5

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「確認できることを知らなかった」は、女性（84.9%）が男性（81.8%）より3.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「確認方法は知っていたが実際に確認したことはない」は、年齢が上がるに従い割合が高くなっており、最も高い60歳以上（14.1%）と最も低い18～29歳（5.4%）では8.7ポイントの差がある。一方、「確認できることを知らなかった」は、年齢が上がるに従い割合が低くなっており、最も低い60歳以上（78.8%）と最も高い18～29歳（87.9%）では9.1ポイントの差がある。



図Ⅲ－86 防災行政無線の放送内容の確認方法（性別／年齢別）

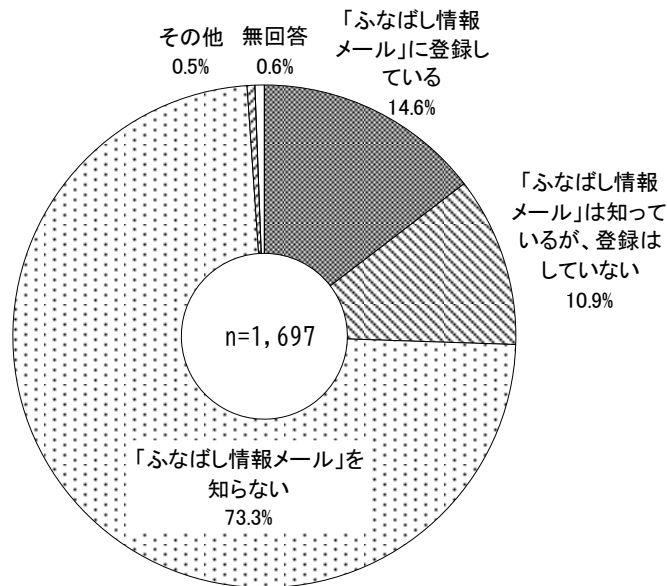
(4-4) 「ふなばし情報メール」の利用状況

『ふなばし情報メール』を知らない」が7割超

【問24】 気象警報や避難所開設情報などを、「ふなばし情報メール」で配信しています。「ふなばし情報メール」の利用状況について、次の中から1つだけ選んでください。(〇は1つ)

「ふなばし情報メール」の利用状況について聞いたところ、『ふなばし情報メール』を知らない」が73.3%と7割を超えており、次いで『ふなばし情報メール』に登録している」(14.6%)、「ふなばし情報メール」は知っているが、登録はしていない」(10.9%)の順になっている。

なお、『ふなばし情報メール』を知らない」と『ふなばし情報メール』は知っているが、登録はしていない」を合わせた『登録していない』人の割合は84.2%と8割を超えている。



図Ⅲ-87 「ふなばし情報メール」の利用状況

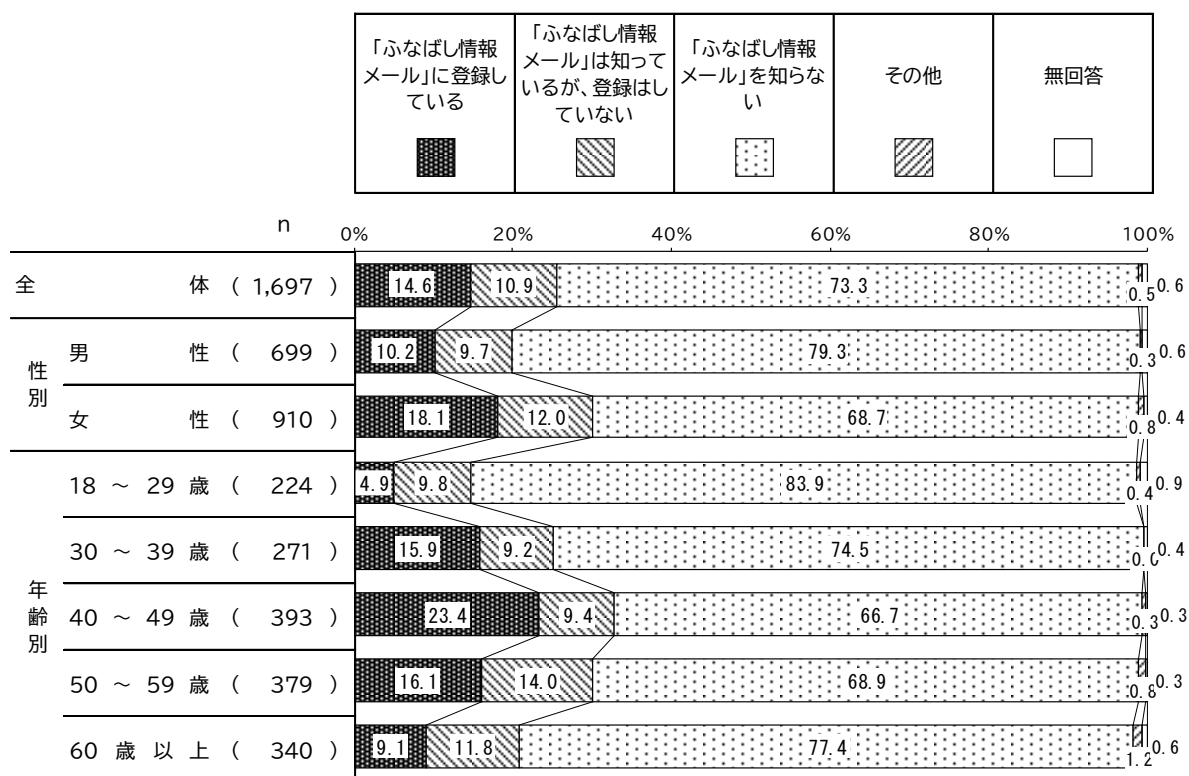
表Ⅲ-24 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
登録しているがIDを忘れた、迷惑メール設定のフィルタで届かない	2
家族が登録している	2
メールの機器を持っていない	2
過去に登録していた	1
これから登録したい	1
(記載なし)	1
合 計	9

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「『ふなばし情報メール』に登録している」は、女性(18.1%)が男性(10.2%)より7.9ポイント高くなっている。一方、「『ふなばし情報メール』を知らない」は、男性(79.3%)が女性(68.7%)より10.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「『ふなばし情報メール』に登録している」は、40～49歳で23.4%と、他の年齢と比べて高くなっているが、18～29歳では4.9%となっている。



図Ⅲ－８８ 「ふなばし情報メール」の利用状況（性別／年齢別）

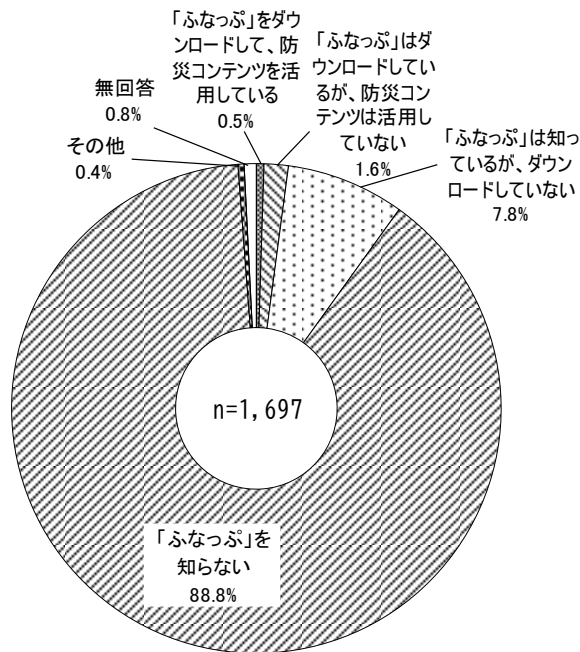
(4-5) 「ふなっぶ」の利用状況

『ふなっぶ』を知らない」が9割弱

【問25】船橋市公式アプリ「ふなっぶ」では、避難所検索マップやハザードマップなど、防災情報を配信しています。「ふなっぶ」の利用状況について、次の中から1つだけ選んでください。(〇は1つ)

船橋市公式アプリ「ふなっぶ」の利用状況について聞いたところ、『ふなっぶ』を知らない(88.8%)が9割弱と高く、『ふなっぶ』は知っているが、ダウンロードしていないが7.8%となっている。『ふなっぶ』はダウンロードしているが、防災コンテンツは活用していない(1.6%)と『ふなっぶ』をダウンロードして、防災コンテンツを活用している(0.5%)を合わせた『ダウンロードしている』人の割合は2.1%となっている。

なお、『ふなっぶ』を知らないと『ふなっぶ』は知っているが、ダウンロードしていないを合わせた『ダウンロードしていない』人の割合は96.6%となっている。



図Ⅲ-89 「ふなっぶ」の利用状況

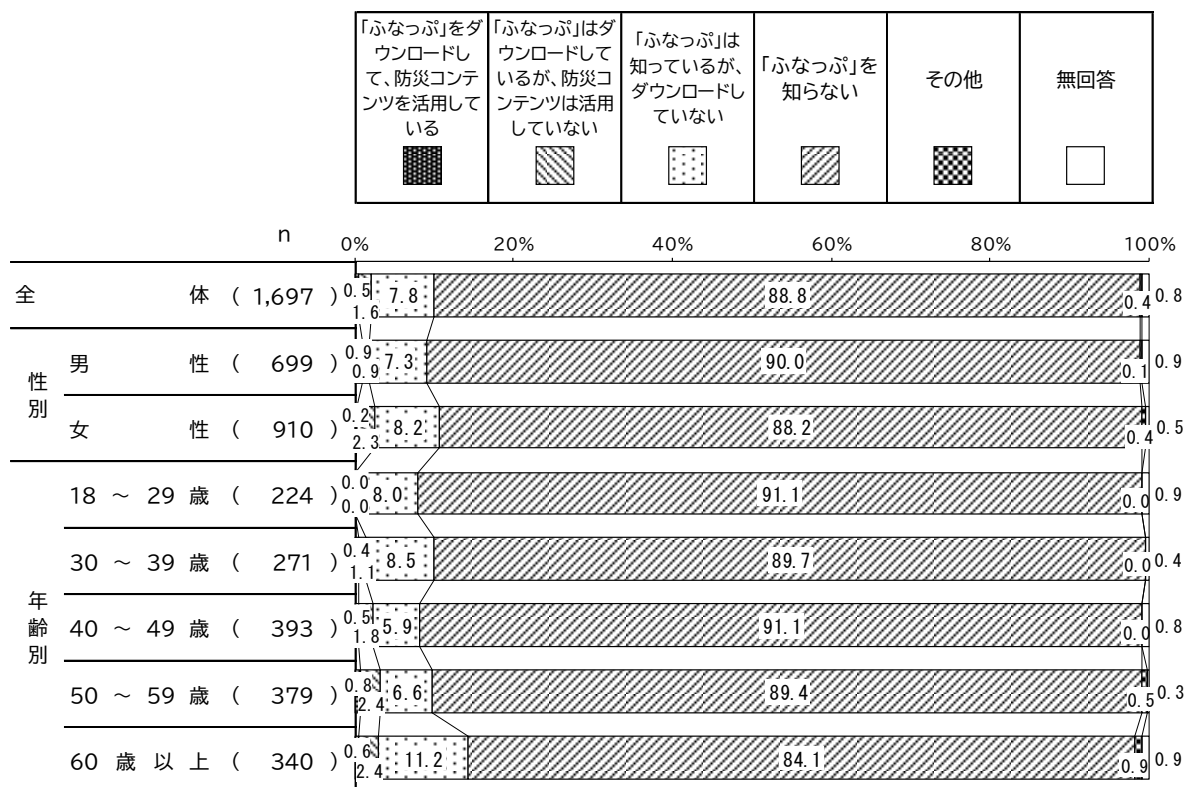
表Ⅲ-25 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
ハザードマップは紙で保管・壁に貼っている	3
したいけどできない	2
登録をしてIDを失ってアクセスできないので使用していない	1
合計	6

【性別／年齢別】

性別で比較しても、とりわけ大きな差は見られない。

年齢別にみると、「『ふなっぶ』を知らない」は、最も低い 60 歳以上（84.1%）と最も高い 18～29 歳、40～49 歳（ともに 91.1%）では 7.0 ポイントの差がある。一方、「『ふなっぶ』は知っているが、ダウンロードしていない」は、最も高い 60 歳以上（11.2%）と最も低い 40～49 歳（5.9%）では 5.3 ポイントの差が見られる。



図Ⅲ－90 「ふなっぶ」の利用状況（性別／年齢別）